

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学研究科
大項目	7 国際交流 (研究科)
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流 (国内外における教育研究交流) についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流 (国内外における教育研究交流) を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況 (院)

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究者養成については、大学院生の研究活動支援の強化と他大学院生・外国の大学大学院生との連携教育プログラムを海外の他大学大学院研究科との単位互換制度や連携教育・研究交流協定を増やす。	→他大学院生・外国の大学大学院生との連携教育プログラムを海外の他大学大学院との単位互換協定の締結、連携教育・研究交流協定。	C	C	/	/	/
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★小項目7.0.1	7.0.1 国際交流 (国内外における教育研究交流) についての方針を明示しているか。 (方針明示の有無) いづれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input type="radio"/> 明示している <input checked="" type="radio"/> 明示していない
	(説明) 国内外における教育研究交流は、教育研究の活性化と質的向上のために必須であり、また国際的研究の推進および経済界と共同で社会貢献を進めるうえで戦略的意義を有するものである。研究科は、こういった共通認識を持ち国際レベルで研究を行っているが、はっきりとした数値目標や明文化はしていない。
★小項目7.0.2	7.0.2 国際交流 (国内外における教育研究交流) を適切に行っているか。 (説明) 2010年度はウッジ大学(ポーランド)より海外客員教員(招聘C)としてヨランタ・ムウォダフスカ 教授を受け入れた。同大学とは教員レベルでは共同研究や留学などを行い交流を深めている。また、海外協定大学院であるフランス・リール第一大学から交換留学生(2名)を今年度も受け入れ、担当教員を配置し適切な指導を行っている。さらに、海外協定大学からの大学院(博士前期課程・博士後期課程)推薦入学制度について検討し、経済学を専攻し、日本語、英語の一定条件をクリアした者に対して門戸を開くことになった。
★その他	

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【経済学研究科】			単位	2006	2007	2008	2009	2010	2011	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—	—		
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		外国人留学生	正規	人	0	4	4	3	2	4	・※5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・特別学生を含む
			交換	人	2	2	2	1	2		・累計数 ・交換は正規以外とする。 ・大学院短期留学を含む
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	0.0	9.1	8.2	6.8	5.4	12.5	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	4.5	4.5	4.1	2.3	5.4		
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		人数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	—	—	—	—	—	・累計数 ・春・秋の合計	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

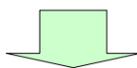
(その他の指標)
協定校と相互交流数(学生・教員)
国別国際交流協定締結先機関数
国別留学生数(学部別)の経年変化

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。	
小項目 7.0.1	国際交流の方針をわかりやすく明示し、各指導教員が共通認識を持つこと。
★ 小項目 7.0.2	
その他	
↓	
【次年度に向けた方策(2)】改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。	
小項目 7.0.1	研究科としての国際交流の方針を明確に記述したうえで、それに対応した研究体制の整備について検討する。
★ 小項目 7.0.2	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》《次年度に向けた方策》	
★ その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】
 ○研究科の活動が具体的に記述され、特に海外からの教員の受け入れや交流が順調に進展しています。学部との違いも鮮明になってよいと思います。経済という教育研究分野は国際交流の必要性も高いと思われるので引き続きその方針など明示に努力されることが期待されます。

【学内委員】
 ○国際交流についての方針の明文化が求められます。
 ○研究科として「国内外における教育研究交流」等について、「共通認識を持ち国際レベルで研究を行っている」が、「はっきりとした数値目標や明文化はしていない。」点の改善が期待されます。
 ○改善すべき事項にも示されているように、方針の明示が必要でしょう。そして、教員が共通意識を持ち、院生をはじめとする構成員の意識が向上されることを期待します。
 ○フランス・リール第一大学との交流は着実に実施されています。しかしながら海外への派遣学生については、難しい面もあろうかと思いますが、対策が必要かと思えます。また、目標の着実な実施に期待します。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし	
------	--